

大東文化大学 語学教育研究所報

No. 47

2024 年 3 月

目 次

2023（令和 5）年度活動報告	2
2023 年度 語学教育研究所運営委員及び研究員.....	3
研究員紹介.....	3
特別研究員紹介.....	4
研究発表会.....	4
講演会	7
『語学教育研究論叢』第 41 号募集要項	9
『語学教育フォーラム』第 39 号原稿募集のお知らせ	10
購入図書一覧.....	11
刊行物についてお知らせ	12
語学教育研究所 創設 40 周年記念プロジェクト	12

2023（令和5）年度活動報告

語学教育研究所所長
渡辺 良彦

語学教育研究所は今年度創設40周年という節目の年を迎えました。未曾有のコロナ流行により停滞していた諸々の活動もようやく正常な状態に戻りつつある情勢下にあつて、当研究所は今年度も前年度同様、すべての業務が計画通り滞りなく遂行されました。これもひとえに運営委員・研究員・事務職員の皆様方のご協力とご尽力の賜物と言えます。1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

研究所の定期刊行物である『語学教育研究論叢』は、お陰様で41号の刊行となりました。集稿から査読・編集・校正・刊行に至るまでの一連の作業を辛抱強くかつ丁寧に進めていただいたことに対しまして、小野尚之先生を編集委員長とする編集委員会の皆様方には心から感謝申し上げます。41号に掲載された論考は計6本です。内訳は専任教員3本、院生非常勤講師1本、院生2本となっております。研究領域は文法学・文法・語彙翻訳・言語文化に及んでいます。昨年と比べて投稿数が少なく、分野的には中国語学3本、日本語学2本、他言語1本と、必ずしもバランスが取れているとは言えませんでした。次回は一層の積極的な投稿を希望いたします。

今年度は『語学教育フォーラム』第39号に1件の投稿があり、無事刊行されました。編集委員長の吉田慶子先生には、心よりお礼申し上げます。『語学教育フォーラム』の投稿数は年度によって一定せず、また全く投稿がない年度もあります。『語学教育フォーラム』は単著に相当する研究書であり、研究所予算を有効に使用して、今後も途切れることなく毎年刊行されることを期待いたします。

今年度の研究発表会はすべてZoomによるオンライン方式での開催となりました。4回の日程中、研究員7名と特別研究員1名の最新の研究成果が披露されました。そのテーマは言語政策研究、文化、辞書研究、語彙と翻訳、文法・語法、語の意味論など多様な分野に及び、外国語学部における学術交流を大いに促進するものとなりました。

中国語・英語・日本語・ドイツ語・フランス語の5部会による講演会は各学科の先生方のご協力により、学部生と大学院生を対象に、オンライン方式や対面方式で開催されました。部会長のクリスティアン・W・シュパング先生をはじめ、運営委員の趙葵欣先生、ジェフリー ジョンソン先生、上村圭介先生、小野寺賢一先生、白井春人先生及び各関係者から多大のご支援を賜りました。皆様方には深く感謝申し上げます。講演会では、ライフスタイルエッセイスト・フランス政府対外貿易顧問フランソワーズ モレシャン ナガタキ氏、東洋大学井上円了哲学センター客員研究員アダム・タカハシ氏、法政大学文学部教授 王安氏、筑波大学人文社会系助教 菊池そのみ氏、埼玉大学人文社会科学研究所准教授 鮮于媚（ソヌミ）氏の各講師の方々が日仏文化交流・美術と思想史・日中対照言語研究・日本語史的研究・第二言語習得理論など話題性に富む多彩な内容でご講演くださり、この場を借りて深く感謝申し上げます。

来年度（2024）は、語学教育研究所創設40周年記念プロジェクトと題して、『語学教育研究論叢』第42号（2025年刊行）を語学教育研究所創設40周年記念号として刊行いたします。奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

最後になりますが、同じく創設40周年記念プロジェクトとしまして、[『語学教育研究論叢』（1号～40号）総目録・索引検索データベース](#)をこの度完成いたしました。語学教育研究所のホームページに公開いたしましたので是非ご活用ください。

2023年度 語学教育研究所運営委員及び研究員

2023年度 語学教育研究所運営委員

所 長	渡辺 良彦	外国語学部英語学科
研究部会長	クリスティアン・W・シュパング	外国語学部英語学科
学 部 長	山口 直人	外国語学部中国語学科
学科主任	竹島 毅	外国語学部中国語学科
学科主任	米山 聖子	外国語学部英語学科
学科主任	福盛 貴弘	外国語学部日本語学科 (4/1～10/8)
学科主任	須田 義治	外国語学部日本語学科 (10/9～)
研究科委員長	須田 義治	外国語学部日本語学科
委 員	趙 葵欣	外国語学部中国語学科
委 員	ジェフリー・ジョンソン	外国語学部英語学科
委 員	小野寺 賢一	外国語学部英語学科
委 員	白井 春人	外国語学部英語学科
委 員	上村 圭介	外国語学部日本語学科

2023年度 語学教育研究所研究員

部会長	クリスティアン・W・シュパング	外国語学部英語学科
研究員	秋山 淳	外国語学部中国語学科
研究員	吉田 慶子	外国語学部中国語学科
研究員	小野 尚之	外国語学部英語学科
研究員	ショーン・デイヘヴン	外国語学部英語学科
研究員	フランソワ・ルーセル	外国語学部英語学科
研究員	大塚 貴史	外国語学部日本語学科

研究員紹介

氏名： クリスティアン・W・シュパング
所属： 外国語学部英語学科（ドイツ語）
分野： 日独関係史・ドイツ語教育

氏名： 秋山 淳
所属： 外国語学部中国語学科（中国語）
分野： 中国語学／中国語教育

氏名： 吉田 慶子
所属： 外国語学部中国語学科（中国語）
分野： 多文化共生と中国語

氏名： 小野 尚之
所属： 外国語学部英語学科（英語）
分野： 語彙論・語形成の研究

氏名： ショーン・デイヘヴン
所属： 外国語学部英語学科（英語）
分野： 比較文化、言語教育の研究

氏名： フランソワ・ルーセル
所属： 外国語学部英語学科（フランス語）
分野： 教育史・ジェンダースタディーズ

氏名： 大塚 貴史
所属： 外国語学部日本語学科（日本語）
分野： 日本語学

特別研究員紹介

氏名：蘇 秋韻

期間：2021年9月1日～2023年8月31日

研究テーマ：位置移動詞“過”の文法化について

氏名：タラカノフ・イゴリ

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

研究テーマ：日本政府の言語政策からみた外国人居住者の英語使用状況

研究発表会

第1回

日時：2022年6月6日（月）

第1発表

発表者：クリスティアン・W・シュパング

題目：戦前期の日本の旧制高等学校のドイツ人教師

概要：最初に、旧制高等学校の外国語教育について説明する。ほとんどの高校では、英語、ドイツ語やフランス語のネイティブの教師も採用されていた。20世紀初頭、「お雇い外国人」の数を減らしたため、外国人社会の中で高校の教師の影響力は高まった。たとえば、第一次世界大戦後、教師はドイツ東洋文化研究協会（OAG）内で以前より大きな役割を果たした。伝記的スケッチの助けを借りて、さまざまなドイツ人教師のキャリアと活動を考察したい。

第2発表

発表者：ショーン・ディヘヴン

題目：日本メディアにおける「笑い」と政治性

概要：欧米に比べて、日本の芸人がネタの中で政府や社会問題などに焦点を当てることはほとんどありません。この発表では、日本と西洋の政治風刺などの違いを簡単に概観し、このようなコメディアンを選択する数少ない日本のコメディアンを紹介します。芸人の取材を通じて、この芸風をする動機、日本で普及しない理由と、今後どうなるのかなどを探ります。

第2回

日時：令和5年10月30日（月）

第1発表

発表者：大塚 貴史

題目：学習国語辞典の課題

概要：学習国語辞典などと呼ばれる小学生向けの国語辞典は、子どもにとって使用しやすく、言葉の意味が理解しやすいものである必要がある。しかし、小学生を対象に実施した調査では、

小学生が学習国語辞典を使用しても言葉の意味を十分に理解できないケースや、そもそも調べたい言葉の項目に辿り着かないケースがあることが明らかとなった。その要因の分析を通じ、現行の学習国語辞典が抱えるいくつかの課題について検討する。

第2発表

発表者：吉田 慶子

題目：初めて日本語から翻訳された中国の法律用語辞典 — 《漢訳新法律詞典》の調査を通じて—

概要：本発表は、翻訳の視座から、日本語から中国語へ翻訳された最初の法律用語辞典について、なぜ当時の中国人が日本語の辞典を選び翻訳したのか、語彙の全体的情報、具体的な翻訳手法、また、当時の中国人はこれらの日本の翻訳語をどのように捉えていたのか、さらにその後の中国の法律用語の近代化へ与える影響などについて、考察を行う。

第3回

日時：令和5年11月27日（月）

第1発表

発表者：秋山 淳

題目：中国語の結果複合動詞について —日本語の結果複合動詞との対照を通じて—

概要：本発表は、認知言語学、特に因果連鎖の観点から、中国語の結果複合動詞(動詞+結果補語：“打死”「殴る+死ぬ」など)と日本語の典型的な結果複合動詞(「切り倒す」など)を比べると、日本語の典型的な結果複合動詞は動作行為を表す V1(<ACT>)+使役他動詞(<CAUSE+BECOME>)の組み合わせであるのに対し、中国語の結果複合動詞は動作行為を表す V1(<ACT>)+自動詞/形容詞<BECOME/BE>の組み合わせであり、使役の意味は百科辞書の知識から獲得されると主張するものである。

第2発表

発表者：フランソワ・ルーセル

題目：なぜ、海外に「リセ・フランセ」(フランス学校)を作るのか？

「リセ・フランコ・ジャポネ・ド・東京」の場合

概要：外国人学校は、2国間の関係のあり方を反映する貴重な存在である。世界各地の外国人学校には長い歴史がある一方、この歴史は、日本における外国人学校の歴史も含め、これまであまり研究されてこなかった。今回は、1967年に創立された「リセ・フランコ・ジャポネ・ド・東京」の創設者たち(実業家、外交官、一般市民)が、どのような動機で行動を起こしたかに焦点を絞って研究してみたい。リセの誕生以前、フランス式教育を受けることができる学校が、東京には既に存在していた。それにもかかわらず、新しく学校を作ることにした理由は何だったのか。

第4回

日時：令和5年12月18日（月）

第1発表

発表者：タラカノフ・イゴリ

題目：外国人労働者数の増加と日本における英語の使用

概要：本発表は、外国人労働者増加による英語使用の増加と、日本政府の外国語使用政策との関係について、現在と将来の政府政策措置の変化をテーマとして取り上げる。日本での外国人労働者の増加が予想されることも、英語の使用の増加につながると仮定された。扱われているデータは日本政府の厚生労働省の統計に基づく。JICA(国際協力機構)の報告書は、将来の政策変更に関する政府の意見の代表的な資料として見られる。

第2発表

発表者：小野 尚之

題目：くびき語法と多義の諸相

概要：多義であること、すなわち、一つの語が複数の意味を表すことは、自然言語のもっとも顕著な特性であり、ほとんどの語は多義であると言ってよい。この発表で注目したいのは、多義的な解釈をもたらす意味同士が、文脈によって調和を見せたり、あるいは不調和に終わってしまう現象である。この現象を、「くびき語法」と呼ばれるレトリックの技法（「恋もスープもさめないうちに」のような表現）を通して可視化し、そこから見えてくる多義の諸相に焦点を当てる。

講演会

第1回

日 時：令和5年5月13日（土）

場 所：大東文化大学板橋キャンパス3号館30114教室

講演者：フランソワーズ モレシャン ナガタキ 氏

演 題：私はどのように日仏文化をつないできたか Une Gaijine entre deux mondes

概 要：1958年の初来日以来、NHK フランス語講座の講師、ファッション・ライフスタイルアドバイザーとして、日本とフランスの文化をつなぐことに貢献してきたフランソワーズ モレシャン氏。文化のあいだで成功する条件をお聞きします。

第2回

日 時：令和5年6月1日（木）

場 所：大東文化大学東松山キャンパス6号館631教室

講演者：アダム・タカハシ 氏

演 題：「ムネモシュネ・アトラス」を解剖する：ヴァールブルクと哲学的な宇宙論の伝統

概 要：ハンブルク生まれの美術史家アビ・ヴァールブルクは、最晩年に「ムネモシュネ・アトラス」と呼ばれるプロジェクトに力を注いだ。それは一群のパネルから構成されており、各パネル上には古代から現代までの図像が特定のテーマごとに並べられている。なかでも彼がとりわけ関心を示した主題の一つに〈天球〉の問題がある。この講演では「ムネモシュネ・アトラス」を糸口として、ヴァールブルクが探求した中・近世の宇宙論とはどのようなものだったのか、そして彼がその主題に惹きつけられた理由とはなんだったのかを思想史的な文脈をもとに考察することにした。

第3回

日 時：令和5年11月18日（土）

場 所：Zoomによるオンライン開催

講演者：王 安 氏

演 題：感情の普遍性と言語の多様性 一日中両言語の感情表現を中心に—

概 要：感情表現に関する従来の研究はそのほとんどが言語間の相違に注目しており、感情の普遍性とその言語化はあまり重視されていない。本講演は、感情の普遍性がそれぞれの言語にどのように反映されているのか、それを捉える言語形式には共通点があるのかという問題意識を持ち、対照言語学的観点・類型論的観点から感情の普遍性と言語の多様性について述べる。今回は日中両言語の感情表現を中心に扱うが、英韓独仏など四言語の感情表現にも一部言及する。

第4回

日 時：令和5年12月21日（木）

場 所：大東文化大学板橋キャンパス3号館30111教室

講演者：菊池 そのみ 氏

演 題：日本語における付帯状況節の変遷と従属節分類の歴史的検討

概 要：日本語において「～て」、「～つつ」、「～ながら」のような〈付帯状況〉を表す節（＝付帯状況節）は、古代（奈良時代・平安時代）から一貫して存在するものであるが、その機能や節内の統語的な制約は現代に至るまでの間に変化してきた。本講演では、個別の形式の変遷を分析した上で、古代語・現代語の従属節分類における付帯状況節の位置づけを整理し、従属節分類に関する歴史的な検討を試みる。

第5回

日 時：令和6年1月11日（木）

場 所：大東文化大学東松山キャンパス6号館601教室

講演者：鮮子 媚 氏

演 題：私の日本語の学習体験からみた第二言語習得理論

—理論と体験は、どのように結び付いたのか—

概 要：私は、臨界期を過ぎてから日本語の学習を開始した一人である。臨界期説から考えると母語話者レベルになるような言語獲得は難しいとされている。私はこれまでニアネイティブを目指しながら日本語を学習し、様々な学習に関する理論的研究に出会い、その応用を試みてきた。本講演では、韓国語母語話者としての私の体験から、SLM (Speech Learning Model) 理論に基づいた発音の難しさと実体験との関係をお話したい。また、インプット仮説 (i+1) を、どのように応用し、どのような疑問を持ったのか。そして、学習スタイルと自分の記憶との関係などを振り返りながら、自分と AI は何が違うのか。言語学習の本質はどこにあるのかを考えていきたい。

原稿募集要項

語学教育研究論叢第41号

語学教育研究所所長 渡辺 良彦
論叢編集委員長 小野 尚之

下記の通り原稿を募集します。奮って御執筆くださるようお願い致します。

内 容： 言語研究・語学教育に関する論文（書評、研究ノート、資料等も可とする）。
文学作品等を対象とする言語学・文献学等の方法を駆使した研究も含む。

資 格： 1. 本学外国語学部専任教員（客員教員、特任教員、助教を含む）
2. 本学外国語学部非常勤教員
3. 共同研究の場合は第一執筆者が該当者であること
4. 客員研究員、学外研究員、特別研究員
5. 本学大学院外国語学研究科博士課程後期課程に在籍の学生（推薦書が必要）
6. その他編集委員会が適格者として認めたもの（推薦書を必要とする場合もある）
※ 応募論文多数の場合は上記番号順に優先権を有する。

投稿申込： 2023年5月16日（火）から2023年7月11日（火）15:00迄（必着）

「執筆申込書」をメールで添付送付すること。

To：語学教育研究所 daitogoken@gmail.com Cc：編集委員長 小野尚之 nono@ic.daito.ac.jp

所定の用紙： 執筆申込及び原稿提出の際に必要な以下の所定の書類は、語学教育研究所のHPに掲載する。
執筆申込書、原稿フォーマット、大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書、指導教員推薦書
語学教育研究所HP <https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>

原稿提出締切： 2023年9月15日（金）15:00迄（必着）

原稿提出先： 語学教育研究所 daitogoken@gmail.com 宛にメールで添付送付すること。

メール送付できない場合は、レターパックライト（青）による郵送での提出も可とする。

その場合は紙版とともにCD-Rなどのデータファイルを同封すること。

大東文化大学 語学教育研究所 〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1 (TEL: 03-5399-7330)

原稿と一緒に提出するもの

(1)大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書

※Excelデータの状態で、語学教育研究所宛にメールで添付送付すること。

(2)指導教員の推薦書

※大学院後期課程の学生のみ、メール添付で提出、その際指導教員のアドレスをCcで入れること。

投稿規程： 1. 未発表の完成された原稿であること。

2. ワープロ原稿とする。横書き全角38字・35行、欧文の場合は半角70字・35行、それぞれA4用紙15枚以内とする（図版・レジュメを含む）。原則、HPの原稿フォーマットを使用のこと。指定ファイル以外の場合、フォント・サイズ等は原稿フォーマットのレイアウトと同様の設定をすること。1ページあたりの文字数・行数等の規定を遵守せず、最終的に15ページを超えてしまった場合は、掲載をお断りする。書式、表記など、甚だしい誤字脱字などがある場合、受け付けないことがある。

3. 本文以外の言語のレジュメを論文の前に付すこと。欧文のレジュメの場合もそれに準ずる。（日本語、中国語は400字以内、欧文は300語以内）また、キーワードを5語前後、列挙すること。（本文の言語による）

4. 論文の題目は日本語及び中国語原稿には欧文、欧文原稿には日本語を付記する。

5. 欧文タイトルの書式は、編集委員会に一任すること。

6. 印刷所等は語学教育研究所に一任すること。

7. 抜刷り贈呈は20部とする。増刷分は個人負担とし、執筆申込書に増刷部数を明記する。

8. 提出された原稿の審査による採否及び、ジャンルの特定は一切編集委員会に任せること。

9. 母語でない言語での論文については、題目、要旨も含めて必ずネイティブ・チェックを受けること。

10. 投稿時には謝辞、補助金、執筆者が特定される記述等を書かないこと。謝辞等については、掲載が決まり、査読後の修正原稿提出時に規定のページを超えない範囲で加筆してよい。

校 正： 著者による校正は二校までとし、紙での校正を原則とする。内容、ヘッダー及びページ番号など、関連付随事項に関して、著者の責任において校正のこと。各校正の提出期限までに未提出の場合は、掲載を見合わせる場合がある。新規加筆は認められない。

発 行 日： 2024年3月発行予定

問い合わせ先： 語学教育研究論叢 編集委員長 小野尚之（E-mail: nono@ic.daito.ac.jp）

以上

2023年5月9日

2023年度『語学教育フォーラム』第39号原稿募集のお知らせ

大東文化大学語学教育研究所
所 長 渡辺 良彦
語学教育フォーラム
編集委員長 吉田 慶子

『語学教育フォーラム』第39号（2024年3月刊行予定）の原稿を下記の要領で募集いたします。

記

1. 募集原稿は、言語学・言語教育に関する論文（未発表のもの）、索引、未刊行言語資料の復刻、研究資料要覧、言語研究・教育に有益なデータ類、文学作品の言語学的分析等の分野のものとしします。
2. 応募資格は著者、筆頭著者、または筆頭編者が以下の所属であることとします。ただし、編著の場合は編者が、共編著の場合は筆頭編者が応募資格を有することとします。また、優先順位は下記番号順とし、本制度を今までに利用されていない方を優先します。
 - ① 語学教育研究所研究員
 - ② 外国語学部専任教員
 - ③ 語学教育研究所客員研究員
 - ④ 外国語学部客員研究員
 - ⑤ 外国語学研究科客員研究員
 - ⑥ 他学部専任教員
3. 刊行形態としては以下の通りとします。（ただし、予算の関係上、変更を求める場合があります。）
ワープロ A4 判で、200 枚以内のもの。単体での刊行を原則とします。ただし、応募状況によっては複数論文から成る論文集として刊行します。和文・中文は 35 字×40 行、欧文は 65 字×40 行を目安とします。
4. 原稿は電子データとして提出してください。また、併せて印刷見本 1 部と PDF ファイルを提出してください。電子データの提出がない場合には受付できません。なお、電子データは原則として Microsoft Word 形式とします。それ以外の形式で提出された場合には、最終的な編集作業にご協力いただくことがあります。
5. 外国語による出版を希望される場合、ネイティブチェックを済ませた原稿を提出してください。なお、ネイティブチェックにかかる費用は著者の負担となります。
6. 完成原稿（カメラレディ原稿）を提出してください。校正はありません。
7. 執筆申込につきましては、執筆申込書を 2023年5月10日（水）～7月12日（水）15:00 迄に語学教育研究所まで提出してください。なお、執筆申込書は語学教育研究所の HP に掲載します。
8. 完成原稿は 2023年10月13日（金）～11月10日（金）15:00 迄に語学教育研究所まで提出ください（期限厳守をお願いします）。
9. 応募原稿は、研究所所長、語学教育フォーラム編集委員長および当研究所が依頼した審査委員によって審査をいたします。その結果によっては刊行不可能となる場合もございます。なお、審査結果は文書にて 12 月下旬（予定）までに通知いたします。応募論文数と予算との兼ね合いで、必要な場合には調整をさせていただく場合があります。
10. 本研究所の予算の制約により、審査で刊行可となった原稿が刊行に至らなかった場合、応募者が本研究所の指定に基づいて製作し、現物納入した完成誌を、本研究所は『語学教育フォーラム』として刊行できるものとします。

ご不明な点がございましたら、語学教育フォーラム編集委員長（keikoyoshi@ic.daito.ac.jp）および所長（yoshiboo@ic.daito.ac.jp）までお問い合わせ下さい。

以上

購入図書一覧

分野	タイトル	著者	出版社
中	幕末明治翻訳書事典 文学・伝記・外国語リーダー篇	川戸道昭	国書刊行会
中	近代中国の日本書翻訳出版史	田雁	東京大学出版社
中	長崎・東西文化交渉史の舞台 一明・清時代の長崎/支配の構図と文化の諸相	若木太一	勉誠出版
中	言語の本質 -ことばはどう生まれ、進化したか	今井むつみ	中公新書
中	日本における近代中国学の始まり	陶徳民	関西大学出版書
英	Teaching ESL/EFL Listening and Speaking (Esl & Applied Linguistics Professional Series)	Newton, Jonathan M./ Nation, I.S.P.	Routledge
英	Re-Envisioning EFL Education in Asia	Muller, Theron/ Admanson, John/ Herder, Steven	Itti Tesol
英	Task-Based Listening: What Every ESL Teacher Needs to Know	Brown, Steven	University of Michigan Press ELT
英	Choose Your Own Adventure 6- Book Boxed Set #1	Choose Your Own Adventure/ Montgomery, R. A.	Chooseco LLC
英	Choose Your Own Adventure 6-Book Boxed Set #2	Montgomery, R. A.	Chooseco LLC
英	語彙力の獲得	沈国威	関西大学出版部
英	オノマトペの認知科学	秋田喜美	新曜社
英	複合辞研究 その成り立ちと広がり	松木正恵	ひつじ書房
独	Bruno Taut in Japan. Das Tagebuch, Band 1 (1933)	SPEIDEL, Manfred	Mann, Gebr.
独	Bruno Taut in Japan. Das Tagebuch, Band 2 (1934)	SPEIDEL, Manfred	Mann, Gebr.
独	Bruno Taut in Japan. Das Tagebuch, Band 3 (1935-36)	SPEIDEL, Manfred	Mann, Gebr.
独	The Travel Diaries of Albert Einstein: The Far East, Palestine, and Spain	ROSENCRANZ, Ze'ev	Princeton University Press
独	太平洋戦争と日独戦時同盟：真珠湾攻撃からドイツの降伏まで	ベルント・マルティン(著), 林晶(翻訳), 他	ミネルヴァ書房
仏	Le Petit Robert de la Langue Française 2024		Robert 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Roule Galette	Pierre Belvès, Natha Caputo	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Le Petit Poucet	Ronan Badel, Charles Perrault	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Le Petit Chaperon Rouge	Ilya Green, Jacob Grimm, Wilhelm Grimm	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Boucle d'or et les trois ours	Gerda Muller	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Poule Rousse	Étienne Morel	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Cendrillon	Charlotte Gastaut, Charles Perrault	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/La Belle au Bois dormant	Camille Garoche, Jacob Grimm, Wilhelm Grimm	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Pinocchio	Anne Fronsacq, Olivier Latyk	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Apoutsiak le petit flocon de neige	Paul-Émile Victor	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Baba Yaga	Christian Broutin	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/La Sieste de Moussa	Madeleine Brunelet, Zemanel	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Nasreddine	Rébecca Dautremér	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/La grande panthère noire	Lucile Butel - Paul François	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Les bons amis	Paul François, Gerda Muller	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Trois petits cochons	Paul François, Gerda Muller	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/La Chèvre et les biquets	Paul François, Gerda Muller	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Un bon tour de Renart	Robert Giraud, Henri Meunier	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Perlette goutte d'eau	Marie Colmont, Gerda Muller	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/La Chèvre de Monsieur Seguin	Alphonse Daudet, Camille Garoche	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Ali Baba et les 40 voleurs	Madeleine Brunelet	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Aladin ou la lampe merveilleuse	Madeleine Brunelet	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Les trois grains de riz	Agnès Bertron-Martin, Virginie Sanchez	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Le petit poisson d'or	Pierre Belvès, Rose Celli	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/La vache orange	Lucile Butel, Nathan Hale	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Le cheval bleu	Lucile Butel, Nathan Hale	Flammarion 出版 (フランス)
仏	Père Castor Collection/Le beau Chardon d'Ali Boron	May d' Alençon, Nathalie Parain	Flammarion 出版 (フランス)
日	『社会言語学』23号	「社会言語学」刊行会	「社会言語学」刊行会
日	日本語辞書学への序章	倉島節尚	大正大学出版会
日	辞書・事典のすべてがわかる本 1 辞書・事典の誕生のひみつ	倉島節尚 監修/稲葉茂勝 著	あすなる書房
日	辞書・事典のすべてがわかる本 2 辞書・事典について調べよう	倉島節尚 監修/稲葉茂勝 著	あすなる書房
日	辞書・事典のすべてがわかる本 3 知れば知るほどおもしろい辞書・事典	倉島節尚 監修/稲葉茂勝 著	あすなる書房
日	辞書・事典のすべてがわかる本 4 辞書・事典の活用術	倉島節尚 監修/稲葉茂勝 著	あすなる書房
日	新レインボー小学国語辞典 改訂第6版 小型版 (オールカラー)	金田一春彦・金田一秀穂 監修	学研プラス
日	学研現代標準国語辞典 改訂第4版	林史典・林義雄・金子守 編	学研プラス
日	チャレンジ小学国語辞典 カラー版第二版	桑原隆 監修	ベネッセコーポレーション
日	ベネッセ新修国語辞典 第二版	中道真木男 編	ベネッセコーポレーション
日	例解学習国語辞典 第十一版 (オールカラー)	金田一京助 編	小学館
日	新解国語辞典 第二版	大石初太郎 編	小学館
日	三省堂例解小学国語辞典 第七版	田近洵一 編	三省堂
日	例解新国語辞典 第十版	林四郎 監修	三省堂
日	旺文社標準国語辞典 第八版	森山卓郎 監修	旺文社
日	旺文社国語辞典 第十一版	山口明穂・和田利政・池田和臣 編	旺文社
日	小学新国語辞典 三訂版	甲斐睦朗 監修	光村教育図書

刊行物についてお知らせ

『語学教育研究論叢』第41号（2024年3月刊行）

『語学教育フォーラム』第39号 『武漢方言熟語資料考釋』趙葵欣 著（2024年3月刊行）

語学教育研究所 創設40周年記念プロジェクト

『語学教育研究論叢』第42号（2025年刊行）は語学教育研究所創設40周年記念号として刊行します。奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

創設40周年記念として、『語学教育研究論叢』（1～40号）総目録・索引検索データベースを語学教育研究所のホームページに公開しました。ぜひご活用ください。

お気づきの点がございましたら当研究所までお知らせください。

大東文化大学語学教育研究所所報 No. 47

2024年3月1日

編集発行 大東文化大学語学教育研究所

〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1

電話 03-5399-7330

E-mail: daitogoken@gmail.com

<https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>